

図1 年次別会員数の推移

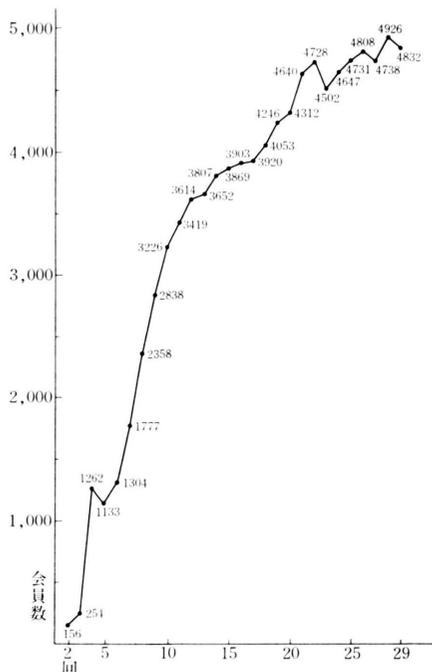
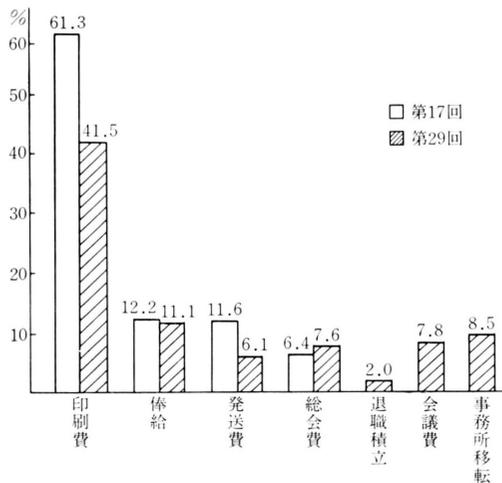


図2 第17回、第29回の支出の主な内訳



が、第29回では 41.5%に減少している。

発送費の占める比率も郵送料が高くなっているにもかかわらず第29回では低率である。

しかし第17回に比して会議費、退職積立金、事務所移転の資金というように胸部外科学会の機構も多様化してきた。

## 会員の地域別分布

会員の地域別分布を10年毎に分割した(図3)。昭和52年度では関東、東京地区 1,861名、近畿地区 892名、中部地区 540名、九州地区 529名、中国四国地区 511名、東北地区 369名、北海道地区 279名である。都道府県別にみると東京 1,099名、大阪 333名、兵庫 307名、福岡 227名、愛知 222名、京都 162名のように大都市に多いのは当然である。年次別増加率は図3の○の間隔のあるものほど高いことを示している。第17回の17年の歩みの地区別頻度を第30回とそれを比較すると、北海道6.18%→5.6%、東北地区 8.5%→7.4%、関東地区37.2%→37.3%、中部地区10.7%→10.8%、近畿地区17.6%→17.9%、中四国地区 8.9%→10.2%、九州10.9%→10.6%とほぼ同一の頻度を示している。

## 名誉会員、特別会員および役員

名誉会員の制度は昭和25年(第3回総会)時に設立された。それまでは本会に顧問をおくことができるという項目があった。第3回河合会長は次の諸先生を名誉会員に推薦された(今村荒男、大槻菊男、岡治道、熊谷岱蔵、佐藤清一郎、塩田広重、都築正男、鳥潟隆三の諸先生)以降今回まで